

医療 Q&A

-第4回-

飛蚊症について

ここからは中山眼科です

「眼の前に黒い虫のようなものが飛んでいるように見える」「払いのけてもまだ見える」「眼球に黒い点が付いたのではないか?」と心配されて外来を受診される方がおられます。そういった症状は「飛蚊症」と言われます。ではなぜ、飛蚊症は起きるのでしょうか?

眼球には、壁の部分と中身のゼリー状の部分があります。このゼリー状のものは硝子体(しようにしたい)と呼ばれ、本来は透明で、卵の白身ぐらいの粘り気があります。この透明であるべき硝子体に、にごりが生じると、外から目に入る光が混濁に当たり、その陰が網膜に写るのが原因です。

この黒い点や虫が動くように見えるのは硝子体が液状の為、頭や目などを動かすと硝子体の中も一緒に動き、網膜上に写しだされる影も動くからです。

このような症状は高齢者に多くみられますが、この影が写っても視力の低下はありません。

では、治療などでこれを治すことができるのでしょうか?残念ですが飛蚊症は完治しにくいものとなっています。年をとって白髪が増えたり、シワが寄ったりするのと同じことなのです。日頃から忙しくしている方

の場合は、「早期に自覚症状がなくなる」人が多いのですが、神経質に目の事ばかり気にしている方の場合は、「飛蚊症がいつまでたつても気になる」人が多い傾向があります。

飛蚊症は「自覚症状が徐々に軽減する性質のもの」であるため、検査をして治療が必要な異常が見つからなかった場合は、手術や投薬などはおこなわず、経過観察となります。

しかし、飛蚊症でも眼に病気があり、硝子体の中に濁りが出来る場合もあります。つまり、飛蚊症が病気の初発症状となる場合です。飛蚊症だけでなく、視力低下やかすみ、光視症(光が飛ぶ感じ)、視野の一部が見えにくい等の症状を伴うときは、網膜裂孔、網膜剥離、ぶどう膜炎、眼底出血などの病気が始まっていることも考えられますので、眼科で精密眼底検査を受けられることをおすすめします。



眼科
白内障手術・硝子体手術
中山眼科
院長 中山 雅雄 先生
日本眼科学会認定眼科専門医
眼科PDT(光線力学療法)認定医

福山市川口町4丁目21番31号
☎(084) 954-9000
<http://www.nakayama-ganka.jp/>

●診療時間

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前(9時~12時)	○	○	○	○	○	○
午後(15時~18時)	○	手術	手術	○	○	—

●土曜午後、日曜、祝日休診